

内藤萌香

ベンガルール・インターンシップ

(1) インターンシップ先の概要

Myelin Foundry とは

- ベンガルールに拠点を置くスタートアップ企業
- 独自の AI や IoT 技術を様々な産業に応用してインド・アメリカ市場にて事業を展開

職場の雰囲気

- 本社オフィスには約 50 名が勤務
- 業界で活躍する経営陣との距離が近く、アットホームな雰囲気の社風

こんな人におすすめ

- スタートアップ企業の雰囲気を知りたい方
- インド人に囲まれて英語を使って仕事がしたい方
- マーケティングに興味がある方

ウェブサイト：<https://www.myelinfofoundry.com/>

(2) インターンシップ先の活動内容

業務内容

- 自社製品に関する地域別のマーケティング調査
 - インターンシップ生 3 人にそれぞれ別の地域と製品が割り当てられ、製品の市場別の参入戦略についてマーケティング調査を通じてまとめた
- マーケティング調査・新規参入戦略についてのプレゼンテーション発表
 - メンターとの 1 日 1 回行われるミーティングを通じてアドバイスをもらいながら自分なりの新規参入戦略の提案をまとめ、発表した

求められるスキル

- 英語でのコミュニケーションスキル
- AI、自動車、メディア&エンターテインメントの知識があればなお良い
- マーケティング資料の作成経験があればなお良い

(3) インターンシップに参加して得た学び

①英語でのコミュニケーションの感覚

インド滞在中にはインターンシップ先の方と日常的に英語を使ってコミュニケーションを取ったため、スピーキング力・リスニング力ともにインターンシップ前に比べて向上しました。業務中にはマーケティング調査を進める上での疑問点をメンターの方にその都度質問したり、自社製品に関することをエンジニアの方に質問したりする機会が沢山ありました。それに加え、お昼ご飯の時間や仕事の合間の休憩中、さらには休日にも上司の方と交流する時間が多く、英語で会話を弾ませる方法や相手と距離を縮める感覚を得ることができました。

②異文化理解力

インドインターンシップ中に会った現地の方との交流を通して、異文化を理解し、尊重することの重要性を学びました。上司の方と関わる中でインドの文化を受け入れたときに彼らとの心の距離がぐっと近づいた経験から、相手の文化を「受け入れてみる姿勢」の大切さを強く実感しました。そして、結果的にその文化を完全に理解できなくても、相手の文化を尊重する姿勢が異文化環境で信頼関係を築くための第一歩になると学びました。

(4) 他のプログラム参加者に共有したいこと、周りの学生へのメッセージ

「インドに1か月間滞在してインターンシップをする」というのは一見ハードルが高いように思えますが、勇気を出して行ってみると本当に優しくて素敵な方々に囲まれて沢山のことを学ぶことができました。また、インターンシップ先で会った方との思い出も沢山でき、私の人生の中でかけがえのない経験になりました。貴重な経験が積めて本当に行って良かったと思っているので皆さんにもぜひチャレンジしてみてもらいたいです。